

第6章 計画の進捗管理

1 計画の進捗管理方法

本計画は、本市と市民・市民団体・事業者等の多様な主体が、役割分担のもと、パートナーシップによる取り組みを進めていくための共通の指針となるものであり、計画の進捗管理においても、多様な主体との連携により振り返り等を行っていきます。

また、重点方針のロードマップにおいて示す前期（2023・2024年度）、中期（2025～2027年度）、後期（2028～2030年度）の節目を捉え、PDCAサイクルによる点検・評価を行い、施策の見直し等を検討します。

進捗状況の把握

4つの重点方針ごとの達成度合を測るため、指標と目標値を設定します。また、市内の自然の状況や市民意識、活動の状況等を把握するための「状況把握項目」を設定し、定期的に比較・分析等を行います。

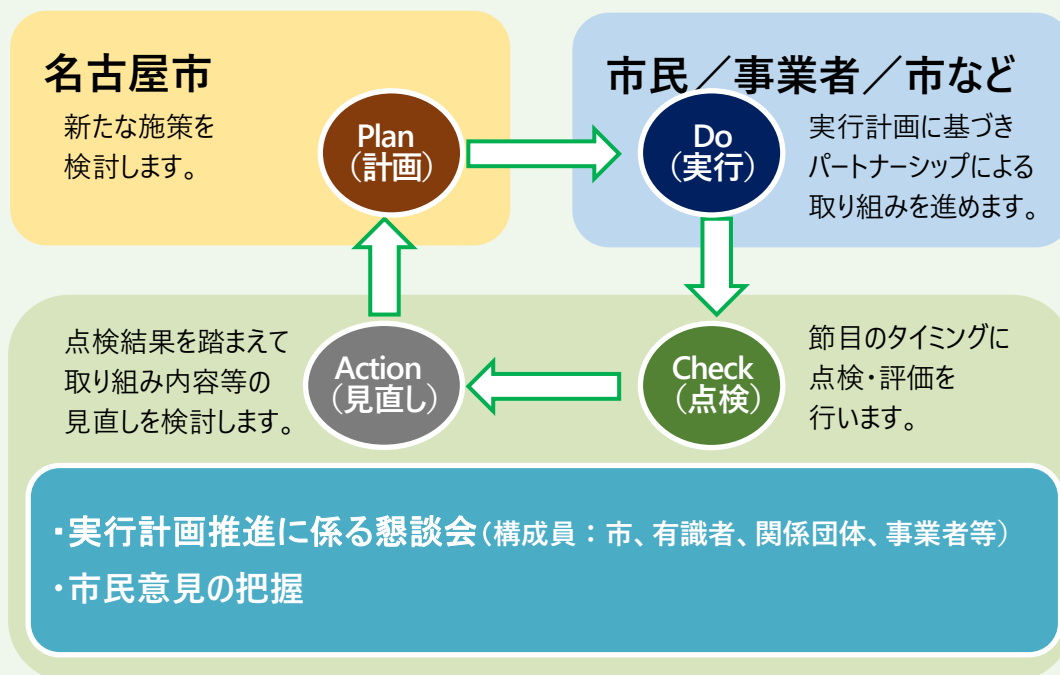
多様な主体との振り返り・今後の展開の検討

各主体の代表や有識者により構成する「実行計画推進に係る懇談会」を実施するほか、市民等からの意見を聴く機会を設け、多様な主体とともに計画の点検等を行い、さらなるパートナーシップの取り組みを進めていきます。

また、市役所庁内において各部局間の情報共有等の場を設け、定期的な進捗管理と効果的な施策展開をはかっていきます。

進捗状況の公表

指標は、毎年度、市公式ウェブサイトで公表するほか、主な取り組みを「名古屋市環境白書」において公表し、市民・事業者等と進捗状況を共有します。



2 進捗管理のための指標や状況把握項目

(1) 進捗管理のための指標と目標値

2030年までの重点方針	指標項目	現状値 (2021年度)	目標値 (2030年度)	本市他計画に おける記載
重点方針1 生物多様性に配慮 したまちづくりの推進	市内における自然共生 サイト認定数(累計)	— (2023年度より制度開始)	5か所以上	
	都心の生きもの復活事業 の実施か所数(累計)	5か所	20か所以上	
	新たに確保された緑の面 積(累計)	31ha	400ha (2021年度からの10か年)	●総合計画 ●環境基本計画 ●緑の基本計画 (共有指標)
重点方針2 社会変革につながる 取り組みの促進	暮らしの中で生物多様性 に配慮した行動をしている 市民の割合	55.5%	60%	●総合計画 ●環境基本計画
	なごやSDGsグリーンパート ナーズ登録認定数(累 計)	2,761件	4,300件	●総合計画 ●環境基本計画
重点方針3 自然と共生する 人づくり	暮らしの中で生物多様性 に配慮した行動をしている 市民の割合(再掲)	55.5%	60%	●総合計画 ●環境基本計画 ●緑の基本計画 (共有指標)
	市民団体、事業者、教育 機関など「なごや環境大 学」を支える団体数(累 計)	510団体	565団体	●総合計画 ●環境基本計画 ●緑の基本計画 (共有指標)
重点方針4 生物多様性保全の 拠点・ネットワークの 強化	なごや生きものライブラリー の閲覧数(年間)	24,883件	50,000件	
	市民参加型生きもの調査 の延べ参加者数(累 計)	2,630人	34,000人 (2021年度からの10か年)	

※総合計画：名古屋市総合計画2023

環境基本計画：第4次名古屋市環境基本計画

緑の基本計画：名古屋しみどりの基本計画2030

(2) 状況把握項目

区 分	状況把握項目	現状値 (2021年度)
緑	緑被率	21.5%(2020年度)
	市民1人当たりの都市公園の面積	7.0m ²
	名古屋の「みどり」が多いと思う市民の割合	66.3%(2020年度)
	名古屋の「みどり」に満足している市民の割合	65.9%(2020年度)
	主な緑のまちづくり活動に携わった市民の延べ人数	35,000人
水 循 環	雨水の浸透・貯留率	15.1%(2020年度)
	雨水の蒸発散率	22.5%(2020年度)
	雨水の直接流出率	62.4%(2020年度)
農	生産緑地の面積	229.0ha
	農家や企業等が新たに開設した市民農園の区画数 (2019年度からの累計)	98区画
動 植 物 種	レッドリスト掲載種数	植物335種 動物419種 (2019年度)
	定着または確認されたことがある特定外来生物の種数	25種
	市民から寄せられた生物情報数	195件
市 民 等 の 意 識 や 参 加	生物多様性について言葉も意味も知っている市民の割合	44.0%
	フェアトレードを言葉も意味も知っている市民の割合	35.9%
	商品購入時に、環境情報(環境ラベルや説明文)を参考にしている市民の割合	38.7%
	エシカル消費の普及・啓発イベント等における理解度	94.0%
	なごや生物多様性センター及びなごや生物多様性保全活動協議会における身近な自然の調査・保全活動の参加者数	2,091人
	なごや生物多様性センター及びなごや生物多様性保全活動協議会における生物多様性に関する講座等の参加者数	1,107人
	なごや生物多様性保全活動協議会構成会員数	64団体・個人
	環境学習センターの利用者数	21,319人
	市民団体、事業者、教育機関などによる「なごや環境大学」の共有講座数	125講座
あいち生物多様性企業認証を取得した市内の事業者数 (累計)	12社(2022年度)	

(3) 都市と生物多様性指標（簡易版）[国土交通省]に基づく状況の把握

「都市と生物多様性指標（簡易版）」は、地方公共団体が都市の生物多様性について把握・評価し、施策立案等に活用するためのツールとして国土交通省が作成し、2016年に公表したものです。

この指標は、2010年に生物多様性条約事務局とシンガポール政府が公表した「都市の生物多様性シンガポール指標（City Biodiversity Index）」と同年の「都市における生物多様性とデザイン（URBIO2010）」で提案された改善試案を参考に、国土交通省において、地方公共団体が使いやすいように整理統合し、「都市の生物多様性指標（素案）」として2013年に公表したものを、さらにデータの入手のしやすさなどを考慮して、簡易版として改良したものです。

今後、取り組みの評価や施策の検討を行うにあたっては、本市独自の指標や状況把握項目に加え、この指標についても、生物多様性に関する状況把握のツールとして活用していきます。

名古屋市の現状値（2016年度）

※三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社が全国665自治体を対象に調査し、2016年11月に公表した報告に基づく。

※現状値算出に当たって使用した基礎情報は、次ページ参照

指 標		概 要	現状値 (2016年度) ※
1	緑地等の現況	緑地等の都市に占める割合	12.64%
2	法令等で保全されている 緑地等の状況	風致地区、特別緑地保全地区などの法令等に基づき確保される緑被地・水面等の都市計画区域面積に占める割合	9.84%
3	緑地等の連続性の状況	連続性のある緑地の割合（半径250m以内に緑地がある場合を連続性があるとみなす）	10.04%
4	動植物種の調査状況	動植物種数調査の調査頻度や地点・対象種の固定、計測方法の記録保管等の状況	D (評価の高い順にA→E)
5	生態系サービスの状況	①緑化等による温室効果ガス吸収量	16357.73 t-CO ₂ /ha・年
		②緑地等による冷涼化効果（樹冠被覆面積）	4.97%
		③緑地等による透水効果	12.64%
6	行政の生物多様性 取組状況	現状調査・分析・評価、施策の立案、計画の点検・実施・評価等の取り組みの有無	10個（14個中）
7	行政計画への住民等 の参加状況	計画策定、公表、実施、点検、評価の各段階における住民・企業等の参加の有無	6 個（8個中）

参 考

都市と生物多様性指標（簡易版）における名古屋市の現状値の基礎情報

※国土数値情報は、衛星写真を使用して数値を算出していることから、市の緑被率等の数値とは異なっています。

都市計画区域面積 32523.30ha

【指標 1・3・5 国土数値情報の集計計算】

項 目	コード	面 積 (ha)	抽出・評価対象とした土地利用区分				
			指標 1	指標 3	指標 5 ①	指標 5 ②	指標 5 ③
田	0100	710.92	○				○
その他の農用地	0200	142.19	○				○
森林	0500	1617.98	○	○	○	○	○
荒地	0600	43.15	○				○
河川地及び湖沼	1100	1546.33	○				○
海浜	1400	0	○				○
海水域	1500	51.04	○				○

【指標 2 規制情報の集計結果】

規制等制度名	面積(ha)
歴史的風土保存区域	0
歴史的風土特別保存地区	0
特別緑地保全地区	196
近郊緑地保全区域	0
近郊緑地特別保全地区	0
風致地区	2990.8
市民緑地	9.9
樹木保存法に基づく樹林等	0
樹林保存条例等に基づく樹林等	0
緑地協定	2.45
市民農園	0
合計	3199.15

【指標 4 生物調査の実施状況に係るアンケート調査結果】

アンケート調査項目		回 答
生物調査の実施実績	①都市に生息・生育する動植物の種数に関する調査を実施しているか？	○
生物調査の実施頻度	②調査を継続的に実施しているか？	10年以上
	③調査を定期的実施しているか？	3年または4年に1度
調査結果の時点間比較の可否	④調査の調査地域を固定しているか？	×
	⑤調査の対象となっている動植物種を固定しているか？	×
	⑥動植物の観察、計測手法等の資料を記録・保管しているか？	×

【指標 6 行政の生物多様性に向けた取組状況に係るアンケートの調査結果】

アンケート調査項目		回答
現状調査及び 分析評価	①緑被地、動植物の分布状況や生息・生育状況等に関する地方公共団体独自の調査を実施しているか。	○
	②生態系の保全や動植物の保護のための法令の規制等の状況やエコジカルネットワークの形成を図っていく上で関連する計画・事業等を調査しているか。	×
	③動植物の生息地又は育成地となる緑被地・水面等を、地形、植生等の特性、生息・生育する動植物の特性、法令の規制等による緑地の担保性等からエコジカルネットワークの構成要素として評価しているか。	○
目標、緑地の 配置指針、 施策の立案	④生物多様性の確保に関する目標を位置付けているか。	×
	⑤生物多様性の確保のためのエコジカルネットワークの形成方針、緑地の配置方法を位置付けているか。	○
	⑥エコジカルネットワークを形成する緑被地・水面等の保全・再生・創出に関する施策を1つ以上設定しているか。	○
	⑦エコジカルネットワークを形成する緑被地・水面等の管理・活用に関する施策を1つ以上位置付けているか。	×
	⑧都市の生物多様性の確保に関する上記以外の施策を1つ以上位置付けているか。	×
	⑨都市の生物多様性に関する他の計画との整合が図られているか。	○
計画の実施、 点検・評価	⑩施策の実施に必要な予算を確保し、施策を実施しているか。	○
	⑪施策実施状況を把握しているか。	○
	⑫施策効果を把握し、その点検・評価を行っているか。	○
	⑬施策の実施・点検・評価に際し、地方公共団体の部局間の連携を図る仕組みがあるか。	○
	⑭施策の点検・評価結果を計画・施策に反映しているか。	○

【指標 7 行政計画への住民等の参加状況に係る調査結果】

アンケート調査項目		回答
計画の策定・ 公表	①住民等の意見を計画に反映する取組を実施しているか。	○
	②住民等への計画の公表等、広報・普及啓発活動を実施しているか。	○
計画の実施・ 点検・評価	③NPO、住民、企業等の多様な主体と連携し、動植物の生息地又は生育地となる緑地等の保全・再生・創出及び管理を行っているか。	○
	④NPO、住民、企業等の多様な主体と連携し、外来生物の防除や、在来種の保全等に関する取組を行っているか。	○
	⑤計画に基づき、生物多様性に配慮した緑化方法等の住民等への周知等生物多様性に関する普及啓発の施策を実施しているか。	○
	⑥計画に基づき、生物多様性に関する環境教育の施策を実施しているか。	○
	⑦NPO、住民、企業等の事業者、教育・研究機関及び専門家等の多様な主体と連携し、継続的に施策の実施状況を把握し、施策効果の点検・評価を行っているか。	×
	⑧住民等との協働による施策の点検・評価結果を計画・施策に反映しているか。	×